



BUSINESS フィールド

早期の事業承継対応で株式譲渡による 経営体質の強化に成功・・・(株)エレドック沖縄

<tsr-van2 検索企業コード 95-023723-0>

株式会社エレドック沖縄（東恩納靖社長）は独立系エレベーター等のメンテナンス企業として、平成10年4月に設立し今年27期目となる。

創業以来、低コストで高サービスをモットーに保守管理を行っている企業であり、常に顧客目線でサービス向上に努め、保守契約台数も1,000台を超え事業基盤の強化・構築に注力し、安定した経営をしている中、早期の株式譲渡で2024年2月に(株)エレドック沖縄は全株式の52.5%を東証プライム上場会社であるジャパンエレベーターサービスホールディングス(株)（以下JESと言う）本社東京日本橋（石田克史社長）へ譲渡した。

東恩納社長に譲渡理由を聞いてみた・・・

一つ目の理由は社会問題となっている事業承継を数年かけて検討していた中、創業当初から親しくお付き合いのある東証プライム上場企業JES石田社長から株式譲渡（M&A）の提案があり、傘下に入る事を決断した。従来の株式譲渡（M&A）は会社を売却するイメージが強く、本土の経営体制は沖縄では馴染めなく失敗する事例もあるが、東恩納社長と石田社長は同年の昭和41年生まれで経営感覚も志も似ている事と、お互い創業の苦しみを経験した者同士でもある事で石田社長から今後も今まで通りの経営でお願いしますと東恩納社長へ託されました。

また、もう一つの社会問題である中小企業の人材確保である、東恩納社長は中小企業の今後は経営が安定していても人手不足で倒産する会社が増える事を想定している。社員の将来を見据え、大手には人材が集まりやすい事もあるため、同業で上場している企業の傘下に入ることで人手不足を回避する事が出来ると判断した。

JESは国内で約10万台（令和6年3月現在）の保守契約を行い今後もさらに拡大を見込んでいる、エレドック沖縄を子会社化することで沖縄県内の事業基盤の一層の強化を図ると共に、共通のサービス提供エリアに於ける人的資源の相互活用を通じた効率的なメンテナンスの実施、さらには技術ノウハウの提供によるサービス品質の向上等、同業の優位性を生かした事業連携が可能となった。

また、JESはエレベーターのリニューアル工事も手掛けており、エレベーターメーカーと同様のサービスが提供出来ることから、今後エレドック沖縄でもエレベーターリニューアル工事も行えることになり、売上拡大のメリットが期待できるし、株式譲渡後JESから派遣で技術指導や安全教育・財務的なアドバイス等、大企業ならではの体制で、従業員の熱意や意気込みが高まりやる気が満ちあふれている。と東恩納社長は語る。

沖縄県内には約1万台のエレベーターがあり、毎年新築物件も増加しており、両社の役割は大きく、今後、エレドック沖縄とJES共に成長が期待される企業として目が離せない。

**エレベーターの
健康管理は**

お問い合わせ

098-861-7735

ELEDOCK
OKINAWA

(株)エレドック沖縄

